

ケアニン＝ 介護、看護、医療、リハビリなど、人の「ケア」に関わり、 自らの仕事に誇りと愛情、情熱を持って働いている全ての人

「こんな仕事やってくれるか、
どこにやりがいがあるんだ、
どこが楽しんだ…ってか？」

『思っていないけど』

「えっ思わないの？スゲエな。俺なんか
新人の頃は毎日思っていたけどな。少しは思うだろ？」

『…まあ、少しは』

「人間だから当然だよ。
こっちも人間なら、向こうも人間。
感情もあればプライドもあるんだ」

「人のために仕事がしたい」
「じいちゃん ばあちゃんが好
きだから」そんな理由で介護
の仕事を目指す若者を、私たち
は「介護ってすてきだぞ」って
迎えることができるのだろ
うか？大森圭が誇りをもって
働ける現場をつくろう！

株式会社あおいけあ
代表取締役 加藤忠相

介護職員が30万人不足！ 高齢化がピークを迎える2025年に(厚労省調べ)

“3K(きつい、汚い、危険)”のイメージが先行する介護の仕事は、肉体的にも精神的にも厳しい仕事です。しかしこれほど人と本音で向き合え、感動する仕事はないと長く介護に携わる人たちは胸を張ります。映画『ケアニン～あなたでよかった～』は、神奈川県藤沢市に実在する「おたがいさん(株式会社あおいけあ)」をはじめとする30ヶ所所の介護福祉施設や専門学校、関連団体に取材のご協力をいただき、シナリオを一つずつ積み上げていきました。この作品には介護という仕事を通して働くことの意味や、人と人、地域との繋がりの尊さが描かれており、この中で語られているセリフの一つ一つが全て実際の現場からとった生きた言葉なのです。そうした日々の介護現場で働く人たちの姿を追いかけていくうちに自然と、人生に前向きになれる心温まる感動のストーリーが出来上がりました。それが本作『ケアニン～あなたでよかった～』です。

「…経験を積むんだよ。それが身になる。
現場に慣れて人間と向き合えるようになったら、
圭も一人前のケアニンだ」

『けあにん…？』

「ケアする人間。介護福祉士って
言うと堅くらしいじゃん」



認知症で人生終わりになんて、僕がさせない——。

大森圭(男性・21)は新人の介護福祉士。高校卒業後、これといってやりたいことがなかった圭は、漠然とした理由で介護の専門学校へ入学。卒業後、圭が働くことになったのは、郊外にある小規模介護施設。高齢者たちと上手くコミュニケーションが取れず、悩む日々が続くなか、圭が初めてメインで担当することになったのは、認知症の星川敬子79歳。試行錯誤しながらも、先輩スタッフたちの協力もあり、少しずつ敬子との関係性を深めていく。「なんとなく」で始めた介護の仕事に、いつしか本気で向き合うようになっていく圭だったが…

介護の未来を考える【ケアニン】特別上映会

日時: 令和元年 11月26日(火)

第1回 午後3時00分～5時00分

(「介護に関する入門的研修」受講者含む)

会場: 県足柄上合同庁舎 5階西側A B会議室

第2回 午後6時30分～8時30分

会場: 県足柄上合同庁舎 別館

主催: 南足柄市社会福祉協議会 入場無料

協力: NEXT10(介護のチカラで南足柄を一番にする会)

問合せ・申込: 南足柄市社会福祉協議会 0465-72-2299



小田急線新松田駅・JR松田駅から徒歩約16分 バス約5分
バス: 箱根登山バス1番乗り場「関本」行き「合同庁舎」下車
お車: 合同庁舎の奥に駐車スペースがあります。